



地域づくり加速化事業 伴走支援を受けて

京都府亀岡市高齢福祉課

亀岡市社会福祉協議会

亀岡市の概要



	R7.4.1
人口	85,900人
世帯数	40,521世帯
面積	224.8km ²
高齢者人口	27,294人
高齢化率	31.8%
（前期高齢者）	13.8%
（後期高齢者）	18%
日常生活圏域数	7
自治会数	23自治体
自治会加入率	79.0%

生活支援体制整備事業のこれまでの動き①

令和3年度

生活支援体制整備事業の方向性が定まらない

令和4年度

市と社協のイメージ共有と
亀岡市に合った仕組みづくりが必要

- ①生活支援体制整備事業の再構築
- ②ロジックモデルに取り組む

⇒亀岡市の「強み」を活かそう！

令和5年度

「強み」を活かすまちづくりの推進

- ①地域包括支援センターとの連携
- ②地域ケア会議など事業のすべてに「強み」の視点を取り入れる

令和6年度

連携先の拡大（住民団体や民間企業など）
住民等の声を聞く機会が増える

生活支援体制整備事業のこれまでの動き②

社協SCの動き 【社協の強みを生かして、「課題」ではなく強みの共有】

- ・ 1層SC 1名、2層SC 4名配置
7つの圏域ごとに、担当者を2名配置（複数圏域を担当）地域を訪問
- ・ 自治会訪問 自治会長と年に1度はじっくり懇談する
（理念・事業説明や地域情報の交換、意識あわせ）
- ・ 地域を訪問し、周りの住民のために汗をかく人たちとつながっていく
- ・ 2層協議体はテーマ（ニーズ）別とする
→ ロジックモデルに立ち返る 住民への対応の継続性

▶「共生(ともいき)のまちづくり」の意識の醸成

高齢になっても、住み慣れた地域で安心して住み続けられるように、生きがいの場や見守り、困った時の助けあいなどのあるまちづくりを、住民のみなさんの思いとともに考え、取り組んでいく事業。



生活支援体制整備事業の取り組みから見えてきた課題

周りの困っている人をサポートしたいという意識の高まりがあるが・・・
(住民・事業所・自治会などによる地域の支え合い活動取組の広がり)



高齢化により見えてくる地域の課題

「移送支援」「生活支援」「認知症高齢者への支援」「孤立」など・・・

※それぞれの問題が複合化しており、地域住民だけの支援には限界がある

令和7年度

仕組みづくり（総合事業の多様化へ）

①かめおか生活安心サポート隊の創設

▶地域活動を担う事業所や企業との連携

②総合事業の検討（本市は従来型のみ実施）

▶総合事業で住民活動をサポートできる仕組みの構築

生活支援体制整備事業の取り組みから見えてきた課題

- ①住民（事業所含む）活動の支援
- ・ 移送支援や生活支援をしている
団体への支援
 - ・ 移動販売事業者との連携
- ⇒総合事業としての実施を検討

- ②総合事業の仕組みづくり
介護予防ケアマネジメントの仕組み
づくり
- ⇒対象者の選定、ケアマネジメント
の流れ、評価方法 など

▷地域づくり加速化事業への申し込み

▷亀岡市の強みを生かした事業の仕組みづくりを、住民や地域と一緒に考えたい

第1回目支援(令和7年9月4日)

▶まずは総合事業の仕組みについて、
市・社協（SC）が理解を深める



現在既に行われている住民活動をサポートできる
形で、仕組みを作っていきたい！
住民へ一方的な押し付けにならないよう、柔軟な
形で取り組みたい！



▶住民団体や地域包括支援センターを交えて、
意見交換を実施



住民団体や地域包括支援センターの声を聞きな
がら、どのような形で総合事業を組み立てるか
の協議から、今後どのような「地域づくり」が
したいかについての意見交換に発展！

気づきと成果①



- 総合事業の仕組みづくりには、「介護予防」の視点を忘れることなく、総合的に事業を展開していくことが大切
- 住民団体や地域包括支援センターなどが、事業の仕組みづくり（「地域づくり」）についてとても積極的であったこと
- 総合事業は「地域づくり」を行うための手段であることから、「地域づくり」の展開にあたり、目的を明確にし意識共有を行うことが大切であること

総合事業の組み立てを検討！

近隣市への視察等も行い、多くの皆様にご協力をいただきました。

第2回目支援(令和7年12月3日)



▷亀岡市（市・社協）が目指す「地域づくり」の目的の共有及び、総合事業の仕組みについて検討



住民団体や地域包括支援センターから意見をもらいながら、次年度からのモデル事業実施に向けて具体的な仕組み内容の検討を行った



▷市・社協（SC）・住民団体と地域包括支援センターで具体的な事業の展開に向けて意見交換を実施



実際に次年度からの実施に向け、改めて双方がつながりを持つことができ、具体的な役割分担やスケジュール感など意識共有を行うことができた

気づきと成果②



- 改めて住民団体や地域包括支援センターなどが、事業の仕組みづくり（地域づくり）についてとても積極的で、具体的な内容を検討することができた
- 亀岡市（市・社協）が目指す「地域づくり」の方向性について、参加者で共有することができ、専門機関、住民団体や事業者、企業など様々な機関が連携しながら一緒に「地域づくり」を行っていく必要があることを再認識
- 様々な地域づくりに携わる人々が、繋がれる・協議ができる場が必要であること

第3回目支援は、もっと参加者を広げてみよう！！

第3回目支援(令和8年2月2日)

▷総合事業の仕組みについて、全体で最終調整



・当市の中で、他課が担っている住民主体の活動サポートも存在することから、次年度実施しながら、事業の整理が必要であることを再認識



▷総勢30名を超える「地域づくりメンバー」で今後の「地域づくり」について意見交換



・それぞれのメンバーが地域住民の為に一生懸命活動されていることを共有
・今回の会を通じて、つながりの場を持ってもらうことができた



気づきと成果③

• 「地域づくり」は、
本当に多くの人達によって
行われている！！



• この人々をつなぐこと、
そして一緒に考えること、
サポートしていくことが大切であることが再認識できた



今度もみんなで、「地域づくり」について考えながら、
まずは次年度総合事業のモデル事業実施を通じ、
よりよい亀岡市になることをみんな目指そう！

伴走支援を受けてのまとめ

- ①総合事業のモデル事業実施に向けて
市・社協（ＳＣ）・住民団体・地域包括支援センター・他課
等と、同じ方向を向き、住民1人1人の生活を、皆で一緒に
サポートしていくものとする
- ②今後の地域づくりに向けて
総合事業は地域づくりのひとつの手段
今後、更に様々な人々を巻き込み、つながり、連携し、一緒
に考える機会をもち、よりよい亀岡市を作っていく

支援チームの皆様から支援をいただけ、
本当に多くの実りと、芽を見つけるがありました。
ありがとうございました！！



令和7年度 モデル事業実施へ

ご清聴ありがとうございました！

「共生(ともいき)のまちづくり」

高齢になっても、住み慣れた地域で安心して住み続けられるように、生きがいの場や見守り、困った時の助けあいなどのあるまちづくりを、住民のみなさんの思いとともに考え、取り組んでいく事業を、亀岡市ではこのように呼んでいます。

第10期介護保険事業計画に向けた 健康づくり・介護予防の一体的な見直し

～地域づくり加速化事業の支援を受けて～



令和7年度地域づくり加速化事業報告会
令和8年3月4日（水）

宇治市 健康長寿部 長寿生きがい課
健康づくり推進課
介護保険課

宇治市の概要



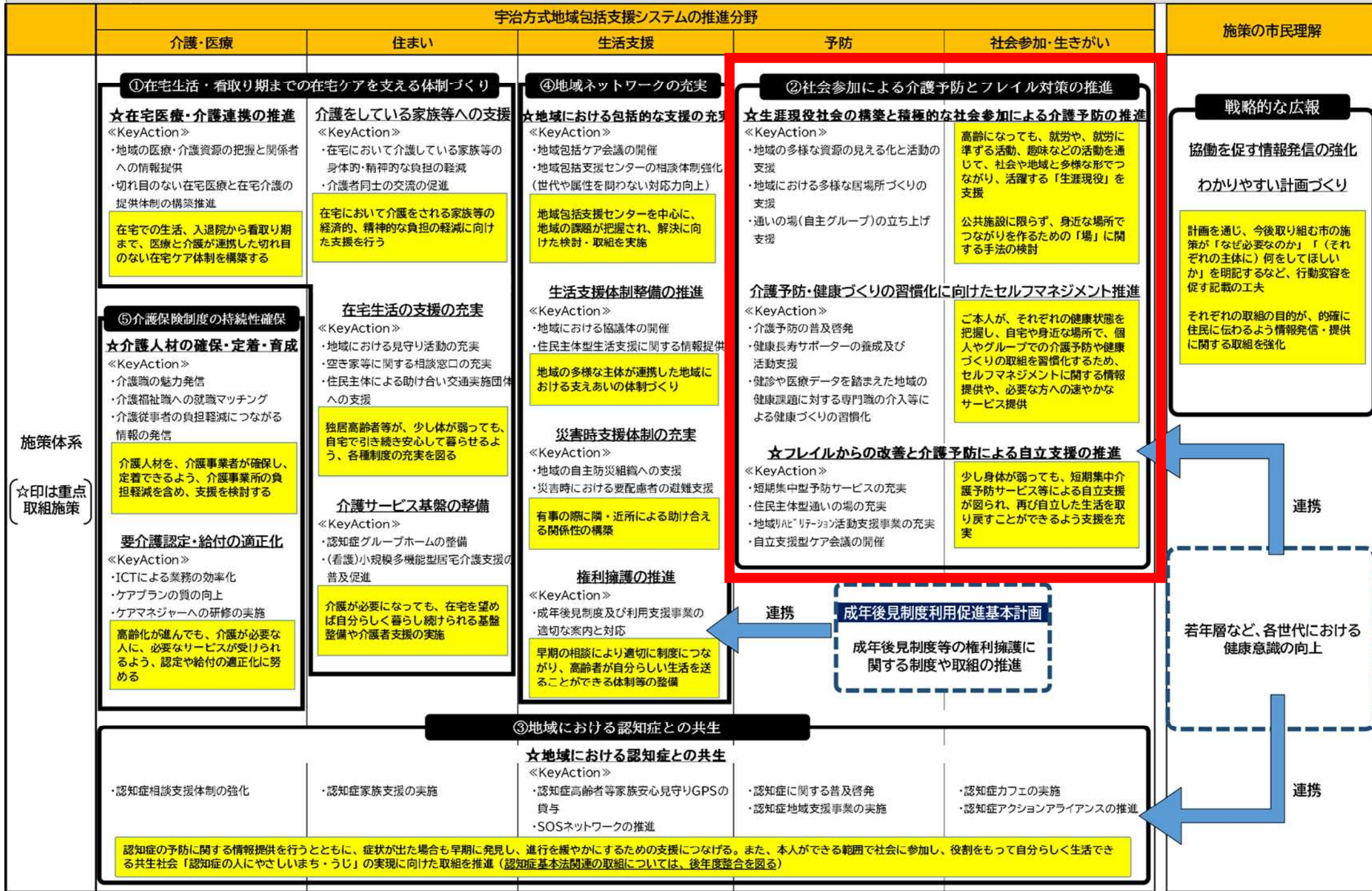
基本情報

区分	数値	出典・時点
①総人口	178,504人	R7. 10. 1
②高齢者人口	54,478人	//
(うち前期)	20,688人	//
(うち後期)	33,790人	//
③高齢化率	30.52%	//
(後期高齢化率)	18.93%	//
④認定率	21.5%	R6. 10. 1
⑤調整済み認定率	21.1%	令和5年度厚生労働省「介護保険事業年報」
⑥第9期介護保険料(月額)	5,900円	
⑦日常生活圏域	8圏域	

◎宇治市の特徴

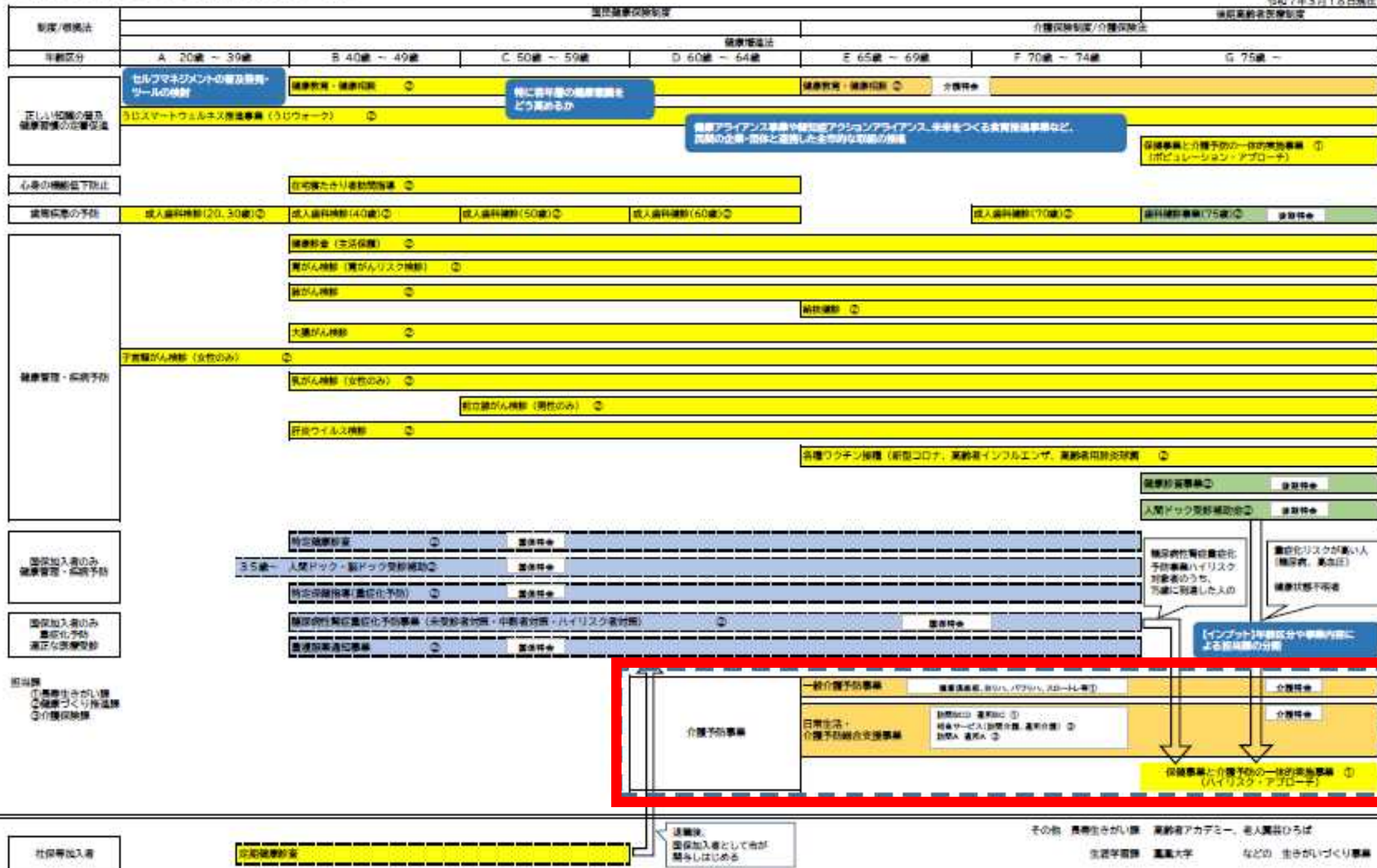
- ・ 高度経済成長期以降、主に京都市の衛星住宅都市として人口が急増
- ・ 南北に宇治川が流れ、川東と川西地域に分かれる
- ・ 京都盆地につながる川西地域は比較的平坦
- ・ 川東は東部丘陵地につながる坂の多い地域が多く、近年は高齢者の移動問題が課題に
- ・ 人口は平成28年をピークに減少傾向
- ・ 高齢者数は近年は横ばい～微減傾向だが、後期高齢者は増加傾向
- ・ 総合事業は訪問サービスD以外は実施
- ・ 過去から実施されてきた機能訓練事業を、一般介護予防事業の形で継続してきた

①経緯 第9期計画策定作業における整理

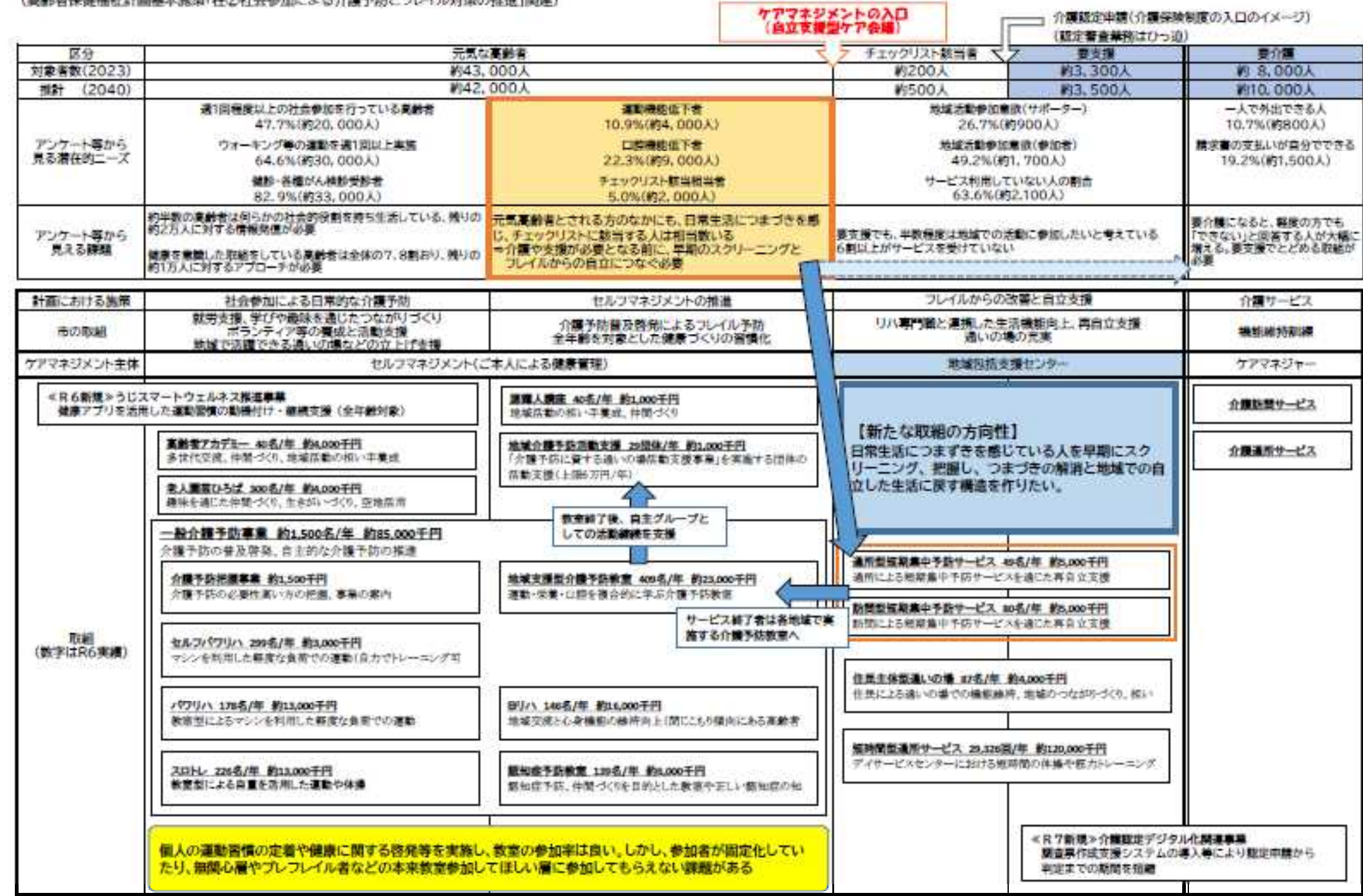


○宇治市が実施している健康増進関係事業の体系

令和7年3月18日現在



○高齢期における介護予防事業の現状と課題
 (高齢者保健福祉計画基本施策「柱②社会参加による介護予防とフレイル対策の推進」関連)



②始動

I. 適切な介護予防ケアマネジメント体制の確立

- ・ 初期アセスメントにおける地域包括支援センター等の支援
- ・ 介護認定の適正化
- ・ 関係部局間の連携の仕組み構築
(住宅改修や福祉用具希望の方には短期集中サービスを案内するなど)
- ・ 事業間のイメージを共有できるツールの検討

II. セルフマネジメント定着に向け効果的なポピュレーションアプローチ事業の検討

- ・ 職域との連携
- ・ 健康情報の発信
- ・ アプリを活用したセルフマネジメント
- ・ 健康のまちづくり

III. 把握から再自立に向けたハイリスクアプローチの取組の構築

- ・ ハイリスク者の把握手法と、再自立に向けたプロセスの体系化
(フローチャートの作成など)

第10期介護保険事業計画期間に向け、健康づくり、介護予防の取組を一体的に検討するため、令和7年5月に複数部局の担当職員と外部の包括・リハ職によるワーキングチームを発足

③庁内協議の限界

- 異動の多い市職員ならではの課題（どうしても知識・経験が不足しがち）
- 設定した課題と正確性と取組の整合性、既存の取組も考慮して課題解消のための取組を作ることが重要で、他市の事例や国の動向も踏まえた検討が必要

⇒庁内の協議体だけでは全体構築の調整に不安があった



アドバイザーや厚生局の方々の豊富なアドバイスをいただきながら進めるため、地域づくり加速化事業にエントリー

オリエンテーションでの意見交換を踏まえ、

- ①全体の行動計画の整理（関係者間で目的を合わせる）
- ②スクリーニング手法（宇治市版チェックリストを作る）
- ③スクリーニングも踏まえた介護予防事業の整理

重点的に検討

④加速化事業3回の支援の流れ

	1回目支援までの準備	1回目支援 (10/1)	2回目支援までの準備	2回目支援 (11/12)	3回目支援までの準備	3回目支援 (2/4)
AM 市職員中心 (宇治市としての 取組全般を検討)	市介護予防事業の 対象者マトリクス表 の作成	・支援チームよりイン トク ・宇治市が目指す地 域像について認識 の共有(目標達成 ワークシートの作成 WS)	・WSワークシートの 完成	重点課題、具体的取 組の検討(具体的行 動計画表作成WS)	・WSワークシートの 作成 ・各チームのワーク シートを合体 →宇治市体系の作 成	・宇治市体系、日常 生活・お元気チェッ クリスト発表、意見 交換
PM 市職員+包括 (サービスC対象者 スクリーニングに 向けた検討)	各地域包括支援セ ンターに1か月間の 窓口寄せられる 相談と対応内容とり まとめを依頼	・包括における相談 対応から介護予防 に関連する事項を 選定 ・対象者をスクリー ニングするための質 問項目を作成	・1回目支援で作成 した質問項目を地 域包括支援センター 窓口で試行 →使いづらい部分 をフィードバック	宇治市日常生活・お 元気チェックリスト (案)の提示、フィード バックされた意見 をもとに修正、意見 交換	・宇治市日常生活・ お元気チェックリス ト(案)のブラッシュ アップ ・地域包括支援セン ター窓口での試行実 施	・宇治市体系、日常 生活・お元気チェッ クリスト発表、意見 交換

- ・各回、①介護予防ケアマネジメントチーム
(Aチーム：包括的支援、Bチーム：介護認定適正化)、
②ポピュレーションアプローチチーム、
③ハイリスクアプローチチームの4チームに分けて検討
⇒それぞれのチームに支援チームに入っていたき、情報提供等をいただいた
- ・各チームのチームリーダーが中心となりチーム内の意見を集約→全体調整役が統括

⑤支援の成果物 (1) 宇治市版チェックリスト (※名称検討中)

日常生活での動作についてお聞きします		心配なく できる	なんとか できる	したいが できない	自分の役割で はない・該当し ない	
セルフケア	①下衣(ズボン、スカート、タイツなど)の着替え	1	2	3	4	
	入浴	②浴槽をまたいで出入りする	1	2	3	4
		③体や髪の毛を洗う	1	2	3	4
	身だしなみ	④化粧・ひげそり・髪の毛を整える	1	2	3	4
		⑤足の爪を切る	1	2	3	4
	⑥お薬の管理(処方どおりに飲むことができる)		1	2	3	4
掃除	⑦部屋を掃除する	1	2	3	4	
	⑧トイレ、お風呂の掃除	1	2	3	4	
⑨食材や日用品の買い物をする		1	2	3	4	
食事	⑩調理(かんたんなものでもOK)	1	2	3	4	
	⑪ペットボトルのキャップを開ける	1	2	3	4	
⑫ごみを分別し、所定の日・場所に出す		1	2	3	4	
⑬草むしりや庭木のせん定などの庭の手入れ		1	2	3	4	
⑭家族や友人、知人との会話や電話		1	2	3	4	
⑮預貯金の管理(銀行の用事をひとりで行える)		1	2	3	4	
⑯階段を手すりや壁をつたわずにのぼる		1	2	3	4	
⑰いすに座った状態からつかまらずに立ち上がる		1	2	3	4	
⑱15分程度、続けて歩くことができる		1	2	3	4	

この6ヶ月間の経験についてお聞きします	ある	ない
⑲転倒したことがある	1	2
⑳周りの人から物忘れを指摘されたことがある	1	2
㉑今が何月かわからない時がある	1	2
㉒週に1回以上外出している	1	2
㉓以前より固いものが食べにくくなった	1	2
㉔お茶や汁物等でむせることがある	1	2
㉕口のかわきが気になる	1	2
㉖会話をしているとき、聞き返すことがよくある	1	2
㉗電話の呼び出し音やドアのチャイム音が聞こえにくい	1	2

今後の希望や今の生活状況について、お聞きします	はい	いいえ
㉘身近な場所で体操や運動をする場があれば参加してみたいと思いますか	1	2
㉙人と交流できる場所があったら行ってみたいと思いますか	1	2
㉚地域の中で自分が役に立つことがあればしてみたいと思いますか	1	2
㉛仕事があれば、してみたいと思いますか	1	2
㉜買い物や受診等に付き添ってくれる人がいますか	1	2

基本チェックリスト	はい	いいえ
1 バスや電車で1人で外出していますか	0	1
2 日用品の買い物をしていますか	0	1
3 預貯金の出し入れをしていますか	0	1
4 友人の家を訪ねていますか	0	1
5 家族や友人の相談にのっていますか	0	1
6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0	1
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0	1
8 15分くらい続けて歩いていますか	0	1
9 この1年間に転んだことはありますか	1	0
10 転倒に対する不安は大きいですか	1	0
11 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1	0
12 BMIが18.5未満ですか ※BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)	1	0
13 半午前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1	0
14 お茶や汁物等でむせることがありますか	1	0
15 口の渇きが気になりますか	1	0
16 週に1回以上は外出していますか	0	1
17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1	0
18 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると云われますか	1	0
19 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0	1
20 今日が何月何日かわからない時がありますか	1	0
21 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1	0
22 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめない	1	0
23 (ここ2週間)以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる	1	0
24 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1	0
25 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1	0

◇あなたのいまのからだの状況を教えてください。

㉞身長をおしえてください

	cm
--	----

※事務局処理欄

--

⑤支援の成果物 (2) 解説書 (市民啓発用、支援者向け手引き)

質問項目	着目する機能と評価、ポイント	(支援者向け)支援のポイント
セルフケアに関すること		
着替え	<p>①下衣(ズボン、スカート、タイツなど)</p> <p><u>片足で立ってバランスをとることができるか。着脱などの行為に不具合が生じていないか。</u> ズボンを立ってはく動作は、片足で立つことができるバランスや筋力を把握します。ズボンの着脱に時間がかかったり、うまくいかなくなることで、着替えがおっくうになったり、トイレの失敗につながります。トイレの失敗は、外出のしづらさにつながるリスクがあります。下衣の素材(ゴムなど)を工夫したり、筋力を取り戻すことで、安心して生活し続けることができます。</p>	<p>【リハ職の同行訪問を検討します】【サービスCの導入を検討します】 家庭環境を確認し、服の選び方や生活環境を工夫するためのアドバイスを実施します。立つ/しゃがむ/歩くなどの行為にも不具合を感じている可能性があるため、サービスCへつないでいきます。</p>
入浴	<p>②浴槽をまたいで出入りする</p> <p><u>安全に入浴するために浴槽をまたぐ動作ができていないか。</u> 入浴の際に浴槽をまたぐ動作を安全に行えるかどうかは、足の力やバランス、股関節やひざが動くかが影響します。また、浴槽の高さや手すり有無などの浴室の環境も影響します。「またぎにくい」「怖い」と感じる場合は、無理をせず理学療法士などのリハビリ専門職にご相談ください。また、手すりやいすの活用、住宅のちょっとした工夫で、安全に入浴できるようになります。</p>	<p>【リハ職の同行訪問を検討します】【サービスCの導入を検討します】 浴室内の環境を確認し、手すりや道具の利用に関するアドバイスを実施します。立つ/しゃがむなどの行為にも不具合を感じている可能性があるため、サービスCへつないでいきます。</p>
	<p>③体や髪の毛を洗う</p> <p><u>腕を挙げて頭を洗えるか、背中を洗うことができるか。</u> 五十肩などで肩が挙がらず、頭や体が洗えないと介護が必要な状況になる可能性があります。様々な道具の利用により、容易にできるようになります。</p>	<p>【リハ職の同行訪問を検討します】【サービスCの導入を検討します】 背中を洗えなくなることで、デイサービスの利用を希望される方が多くなりますが、様々な道具の活用により自分で続けることが可能なため、アドバイスを実施します。廃用性障害による肩の可動域が狭くなっている場合は、サービスCへつないでいきます。</p>
身だしなみ	<p>④化粧・ひげそり・髪の毛を整える</p> <p><u>身だしなみに気を遣うことができているか。</u> 社会とのかかわりが少なくなると、自分が人からどう見えるかということに気を付けることがなくなり、身だしなみの乱れがみられることがあります。社会とのかかわりが少ない状態が続くと、引きこもりや、廃用性の認知機能の低下を引き起こすリスクにもなります。</p>	<p>【認知機能に関する簡易チェックを検討します】【通いの場やサロンへの参加を促します】 身だしなみに気を遣わなくなることは、認知症の初期に現れやすい外見上の特徴といわれています。本人はできていると回答していても、他の項目でアセスメントするにあたっては、相談者の身だしなみにも気を付けて確認するようにしてください。社会参加が少ないようであれば、通いの場等への参加促進も検討してください。</p>
	<p>⑤足の爪を切る</p> <p><u>つま先に手が届かなかつたり、爪切りをうまく使えなかつたりしないか。</u> この行為ができなくなると、靴下をはくなどの行為も難しくなっている可能性があります。また、爪を切れないことにより、爪が割れたり、巻き爪になったりして、歩行のしづらさや転倒のリスクにつながります。</p>	<p>【リハ職の同行訪問を検討します】【サービスCの導入を検討します】【受診勧奨】 股関節の柔軟性や握力、視力の低下などの複数の要因により足のつめ切りが難しくなっている可能性があります。状況に応じてサービスCの導入を検討しますが、巻き爪になってしまっている場合は、皮膚科の受診を勧奨します。</p>
⑥お薬の管理(処方どおりに飲むことができる)	<p><u>薬を決められたとおりに飲むことができているか。</u> 服薬の管理は、健康を守るために大切なことです。飲む薬の種類や時間、回数を覚えているか。また、家事などの日常生活の能力と深くかかわります。「飲み忘れる」、「似た薬があって不安」、「うまく飲むことができない」など、少しでも気になることがあれば、医師、薬剤師などにご相談ください。</p>	<p>【薬剤師の同行訪問を検討します】【認知機能に関する簡易チェックを検討します】 服薬の管理が難しくなることは、認知機能の低下が疑われますが、服薬の工夫である程度解決することもできるといわれています。ちゃんと飲めているか、薬が余ったりしていないか、確認することも必要です。</p>

⑤支援の成果物 (3) 健康づくり・介護予防に関する宇治市体系

最上位目的	上位目的	中位目的	下位目的	具体的取組
<<②>> 新規要支援・要介護認定者の平均年齢を85歳まで引き上げる。 ※現在は80.2歳	<<③>> 自立した生活を送ることができると高齢者の割合が増えている 【戦略】退職する人が増える70歳からを重点的に予防	<<②>> 生活機能維持のためのセルフマネジメント(*1)により要介護になる時期を遅らせる *1:住民それぞれが、年齢や体調に合わせた心身の健康づくりができてきている状態	<<②>> 生活機能維持のためのセルフマネジメントの周知啓発	【①A-2】介護予防や再自立の方法を市民の理解を促進するため、「事業の目的」や「どのような状態の人におすすめるのか」をわかりやすく記したパンフレットを作成 ①どのような状態像の人がどのような支援につながるべきなのかを整理するための『日常生活・お元気チェックリスト』の作成(R8.4月) ⇒市民向け解説書、支援者向け解説書も併せて作成 ②令和9年度予算編成に向け、一般介護予防事業の整理など、10期に向けた健康づくり・介護予防事業の大枠を整理(R8.8月) ③パンフレットデザイン、原稿作成(R9年度中) ④印刷製本
		<<②>> 健康に関するセルフマネジメント(*2)により、要介護になる時期を遅らせる *2:生活習慣病(糖尿病・高血圧・低栄養)について理解し、対策ができていく状況	<<②>> 健康に関するセルフマネジメントの取組につながる周知啓発	【②-2】70歳にポイントを当てたチャートの作成(R8中での実施) ①内容の検討 ・70歳とする根拠を固める(新規認定者の年齢) ・掲載する内容の検討 健診と運動教室など分けたもの 年齢や性別でわかりやすく 教室のねらいや特徴を記載 ・予算化(配布方法、デジタル化の検討) ・構成、デザイン、印刷 ②広報先の検討と決定 ・住民向け・・・市政だより、介護保険だより ・包括支援センター ・医師会・・・医療機関への周知 ・商工会議所・・・会社の退職者への周知
		セルフマネジメントを継続・実践できる場がある	セルフマネジメントを継続・実践できる場づくりをする	【②-3】【③-4】健康に関するセルフマネジメントを継続・実践できる場づくり(加えて短期集中予防サービス利用後の接続先確保) ①集団で行う教室等の実施 ・現行の教室を整理、新規も検討 ②個別で取り組めるジムなどの利用補助や動画配信(民間事業者への委託含む) ・ジム利用の対象者を決める ・委託先の検討 ・動画配信内容の検討 ③アプリ(ウォーキングアプリ、食事記録アプリ等)の充実
		<<①A>> なじみの関係の中で社会参加を続けることができていく	それぞれの継続・実践の場において見守り合い、状態の落ちた人がいれば専門相談につながる事ができる仕組みづくり	【①A-1】グループ、サロンごとに出前講座を実施し、ボランティアを養成し、サロン参加者の状態の変化に気づき必要な支援につなぐ地域のネットワークづくり ご近所見守りチェックリスト(金沢市)の事例を参考に、『見守りチェックリスト』を作成し、地域の見守りのネットワークを強くする ①『見守りチェックリスト』の項目検討

⑥支援を受けて

良かった点

○チェックリストの検討など、専門性の高い検討分野に支援をいただくことができた

⇒「宇治市の住民は以前から市が機能訓練事業を頑張ってきたから教室参加意識が強い」というご意見など、他市と比較する視点はなかなか持ち合わせることが難しいので、加速化支援を受けてよかったポイント

○具体的な取組の部分について、計画策定の前年度の段階で考えることができた

⇒今後の検討、進行管理にやりやすさを感じる

⇒宇治市体系の整理に基づき、次期保健福祉計画柱②の具体的な取組について引き続き検討

○担当職員、包括職員と自立支援、健康づくりへの思いを共有することができた

⇒3回の支援を通じ、各回平均13人の市職員、平均11人の包括職員が参加

⇒支援以降実施された地域包括ケア会議においても、包括の職員より会議での話し合いを踏まえた発言があった



従前から、包括職員とは、加速化以前から業務上抱えている課題やありたい姿について、話し合いをしてきていたことが、スムーズな理解につながったのではないかと

たくさん励ましの言葉をいただき、盛り上げていただきながら進めることができました！
スタートラインにつけたという感じ…ここから本当に良いスタートを切れるよう頑張ろう！



村井アドバイザー、近畿厚生局のみなさま、京都府のみなさま、
ありがとうございました。今後ともよろしく願いたします。
宇治市職員一同

最後までお聞きいただきまして、ありがとうございました。

令和7年度地域づくり加速化事業 報告会

【京都府】亀岡市・宇治市支援を通じて

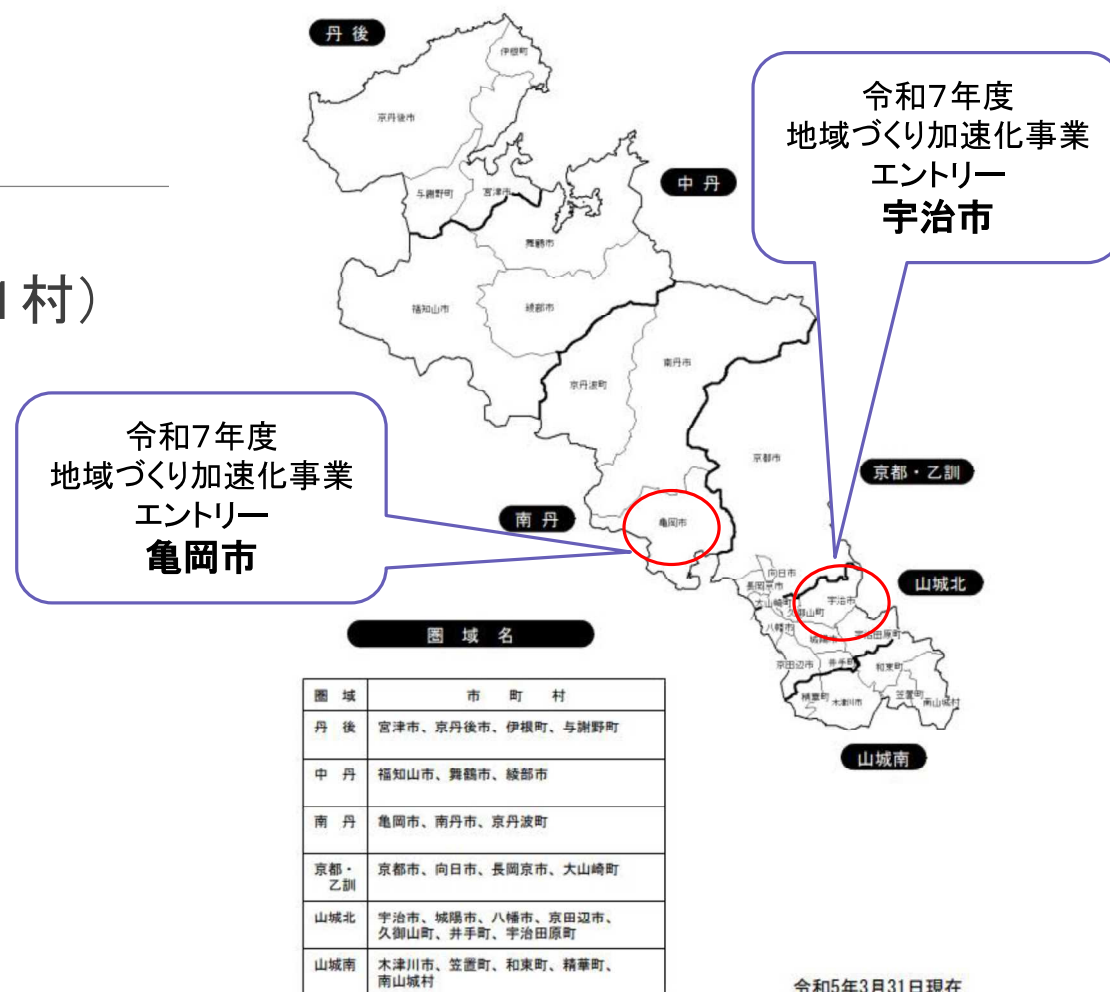
京都府健康福祉部高齢者支援課

京都府の概要

- ◆ 市町村数: 26市町村(15市10町1村)
- ◆ 総人口: 約247万人
- ◆ 65歳以上人口: 約73.3万人
- ◆ 高齢化率: 29.7%
- ◆ 要介護等認定者数: 約17.6万人
- ◆ 要介護等認定率: 23.7%

(令和7年3月末時点)

○ 高齢者健康福祉圏域



亀岡市からのエントリー内容

実施状況

- 過去にサービス・活動Cを終了した経緯あり、現在は従前のみの実施
- 令和5年度から、地域課題をテーマにした第2層協議体を開催するなかで、移動販売や移送支援、生活支援など様々な住民活動が増えてきている

課題

- 亀岡市には多様なサービスがなく、いかに住民ニーズから総合事業の創出に結びつけていくのか、これまで蓄積されてきた経験がないことから、高まっている住民の機運を総合事業にいかにつなげることができるのか、が課題

取り組みたいこと

- 担い手の確保や動機づけの工夫など、住民活動に寄り添いながら、総合事業の立ち上げからサービス創出に向けた取り組みを進めていきたい
- 今後のサービスを軌道に乗せて継続・発展させたい

亀岡市への支援内容(1回目)

1回目
(9/4)

2回目
(12/3)

3回目
(2/2)

<サービスB・Dの先進事例紹介と総合事業への理解促進>

- ・近畿圏域内の訪問型サービスB・Dの先進事例を紹介
- ・亀岡市の既存の取り組みを総合事業としてどう位置づけるかを検討

<関係団体との認識共有と意見交換>

- ・地域づくり加速化事業の概要、亀岡市の施策、総合事業のポイントを関係団体へ説明
- ・多様な主体による地域づくりの重要性を確認

<地域課題に対する具体的な意見とアイデアの共有>

- ・亀岡市の目指す地域像や具体的な取り組みについて、関係団体と自由な意見交換を実施

\ Point! /

- 先進地域の情報共有
モデル事例の実施要項や
交付要綱から具体的に事業
理解を深める
- 総合事業の目的を全体で
共有し、共通認識をもつ

亀岡市への支援内容(2回目)

1回目
(9/4)

2回目
(12/3)

3回目
(2/2)

＜多様な実施主体による高齢者の移動支援・生活支援
モデル事業の意見交換＞

- ・地域包括支援センターと意見交換を実施し、モデル事業案を具体化し、事業の骨子を整理するとともに、介護予防ケアマネジメントCの導入について検討した
- ・地域包括支援センター、住民活動団体とともに、移動支援・生活支援の具体、各団体の思いを共有
- ・住民と専門職・地域包括支援センター等をつなぐ生活支援コーディネーターの役割を深め、持続可能な事業デザインを検討

\ Point! /

- 円滑なモデル実施に向けて、具体的な内容を全体で協議
- モデル事業のその後も見据え、これからの地域づくりに必要な事業デザインを検討

亀岡市への支援内容(3回目)

1回目
(9/4)

2回目
(12/3)

3回目
(2/2)

<モデル事業の検討>

- 取組開始に向けた準備
- 実施要綱と交付要綱等の検討

<高齢者支援に関心を持つ企業も交え意見交換>

- 地域活動に対する思いの共有

(各団体・事業所から活動の紹介、今後こんなことがしたい等)

- 亀岡市内で、多様な主体が協働することで、これからできそうなことを検討

\ Point! /

- モデル事業の実施に向けたロードマップの作成することでスケジュールを共有を図る
- 地域活動を行う多様な主体での意見交換のなかで、相互役割の理解を深める

宇治市からのエントリー内容

実施状況

- 健康状態不明者の把握のために訪問やアンケート実施を継続実施
- 部署を超えた庁内連携に加え、今年度から、今後の介護予防の取組に向けて庁内外の関係団体と連携した検討チームを立ち上げた

課題

- 自立支援や重症化防止といった介護予防マネジメントの考え方を、すべての関係者間で理解を図る必要がある
- フレイルからの改善と自立支援を目指したフレイル対象者の早期把握に課題がある

取り組みたいこと

- 今後、国の動向を踏まえ、これからの介護予防の方向性についても示していただける方からの助言を受けながら、取り組みを進めていきたい
- 他自治体での取組事例を参考にしつつ、地域包括支援センターと連携した介護予防の取組や介護予防が必要となる対象者の把握方法を改善したい

宇治市への支援内容(1回目)

1回目
(10/1)

2回目
(11/12)

3回目
(2/4)

<宇治市と支援チームの認識を共有>

- ・各グループの取組内容をもとに、課題・目標・取組・成果指標を整理し、宇治市の目指す地域像を再確認
- ・宇治市が目指す地域像について改めて話し合い、グループワークを踏まえて目標達成に向けた介護予防事業の取り組みシートを完成させることを確認した

<宇治市版基本チェックリストの検討>

- ・地域包括支援センターの相談内容を分担し、グループワークを実施
- ・地域包括支援センターの相談内容をもとに、総合事業の対象者、対象者の背景や必要なアセスメント項目について検討

\ Point! /

- ワークシートを用いて、現在の取組みについて、各ワーキングチームが取り組む課題や目標を整理
- 宇治市における困りごとから、地域独自の基本チェックリスト項目の追加を検討

宇治市への支援内容(2回目)

1回目
(10/1)

2回目
(11/12)

3回目
(2/4)

<第10期介護保険事業計画に向けたロジックツリーの整理>

- ・各ワーキンググループの進捗報告、課題共有、今後の方向性を確認
- ・取組の具体化に向けて「いつ・どこで・誰が・どのように」をグループワークで検討

<宇治市版基本チェックリストのブラッシュアップ>

- ・回答しやすい質問となるよう、理由や具体的な困りごとを記載できる欄の追加の工夫など、地域包括支援センターでの活用方法を検討

\ Point! /

- ワークシートを用いて、各ワーキングチームの取組を深掘し、具体的に検討する
- 包括とともにチェックリストを作成することで、現場で活用できる内容にする

宇治市への支援内容(3回目)

1回目
(10/1)

2回目
(11/12)

3回目
(2/4)

<第10期介護保険事業計画に係る具体的取組についてプレゼン>

- ・宇治市版基本チェックリストを含む具体的取組を各ワーキングチームのリーダーから健康長寿部長等にプレゼン

<宇治市の今後の取組方針について共有>

- ・包括、市、支援チームで意見交換
- ・今後、取り組みたいことについて、市と包括と一緒にグループワークを通じて検討

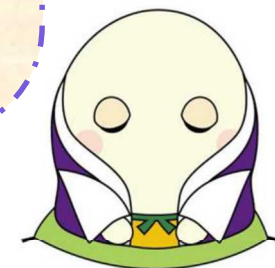
\ Point! /

- 具体的取組を、部署を超えて共有することで共通認識をもつことができる
- 具体的取組は、日々の取組のなかで修正し、継続的にブラッシュアップしていくことができる

支援を通して得た気づきや学び

- 住民の方々の力の大きさや、地域資源の強みを改めて実感した
- 組織を超えて共有したり対話したりすることにより、組織のつながりや、事業の深まりが生み出されることを実感した
- 地域づくりの視点を持ちつつ、市町村の思いや考えを尊重する大切さ、そのためには、顔の見える関係や対話が重要であることを改めて認識した
- 支援チームに多く助けていただき、府単独では、このような支援ができなかったと感ずることがあり、府の役割について改めて考えるきっかけとなった

皆様、ありがとうございました。



地域づくり加速化事業 伴走的支援を振り返って

近畿厚生局 健康福祉部 地域包括ケア推進課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1. 課題と方針
2. 大切にしていること
3. 支援内容
4. 伴走的支援の結果
5. これから

課題と方針

課題

セミナーだけでは

支援の限界

がある

府県や関係省庁と共に

協働する体制

を作りたい

支援の必要な市町村が

手上げできない

状況があるのではないか

方針

個別自治体の支援

を重視し、

府県と協働する

とともに、

効果的な支援の

在り方を考える

大切にしていること

1

市町村の「思い」を尊重

市町村の「やりたい」を最優先、
どうすれば「やりたい」を実現できるか考える

2

ありたい姿の「目線合わせ」を意識

市町村の「ありたい姿」に向けて、
対話を重ね、認識を共有し、共通の目的を目指す

3

「チーム」で市町村の「自走」を意識した支援

アドバイザー、府県、事務局、厚生局の支援チームで状況に応じた
役割分担を行い、支援後の市町村の“自走”と“府県との関係性”
を見据えて支援する
支援と支援の間の連絡・調整を密に行い、支援の流れを途切れさせない

4

「局全体」での取組

他部門の職員も伴走的支援に同席
自治体職員等との共働・共創ができる人材の育成を局全体で目指す

支援内容

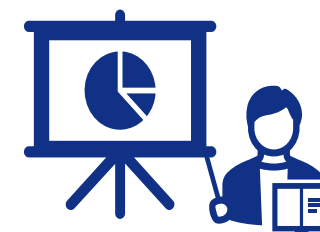
1. 支援前の準備

- 支援チーム内での情報共有
- 支援内容の検討
- 支援前ミーティング
- 進捗状況の確認



2. 当日の支援

- 事業趣旨説明
- 事例紹介
- 制度説明
- データ提供



3. ブロック別研修

生活支援体制整備事業に関する悩みや課題を共有し、解決のヒントをお届け

- 講師が対談を通して事前質問にアドバイス
- 5市町の取組紹介
(亀岡市/尼崎市/かつらぎ町/彦根市/大東市)
- 講師と登壇者全員で研修を振り返り



伴走支援の結果

1. 京都府宇治市

- 4チームに分かれて、また、チームを超えて、検討を重ねに重ね、宇治市の重点課題をまとめた「第10期介護保険事業計画期間における健康づくり・介護予防に関する宇治市体系」を作成し、健康長寿部長にプレゼン。実効性のあるものとするため、今後は「取組ロードマップ」を活用するなど進捗確認を行っていく。
- 対象者の状態像に応じたサービス提供を行うために「宇治市日常生活・お元気チェックリスト」（案）を作成。地域包括支援センターの職員も交えて、対象者の背景や必要なアセスメント項目について検討。モデル実施も行いながらチェックリストをブラッシュアップ。

2. 京都府亀岡市

- 総合事業が、従前相当サービスのみのため、住民のニーズに即した生活支援や移動支援等の実施に向けて、亀岡市の目指す方向性、住民に協力してもらえそうなこと等について、亀岡市、亀岡市関係者及び支援チームで話し合う。
- モデル事業について、住民・専門職・地域包括センター等を繋ぐ生活支援コーディネーターの関わりを軸に、それぞれが担える役割を整理しながら、事業デザインを具体的に検討。
- 来年度の試行的実施において実施要綱の検討し、今後のロードマップ（誰がいつ何をするか等）を作成。

伴走支援の結果（まとめ）

1



ネットワークづくりのきっかけ

- ・ 「国から人が来ているので、せっかくだから」と「繋がりたいけど、なんとなく壁がある組織」と繋がるきっかけになった。

2



振り返りのきっかけ

- ・ 「答え」ではなく「答えの出し方」を伝え、課題解決のプロセスを体験することで、既存の取組を再検討するきっかけになった。

3



地域資源の再認識のきっかけ

- ・ 住んでいる、働いていると身近すぎて気付かない、地域の強みを再認識するきっかけになった。

これから

1



支援チームの
一体感

2



コーチング
Vs
ティーチング

3



フォローアップ

4



府県・市町村の
みなさまへ

